



住まいのかわら版 No.39



こんにちは！ いつの間にか冬ですね～
今回は、『雪』についてです！
いろんな事を調べてみましたので 暇な時に読んでねえ～

雪はどうやって出来るとかいなあ？？

雲は水蒸気を含んでおり、上空が冷たいときに、大気中の微粒子を核として氷の結晶が発生します。この氷の結晶を氷晶と呼びます。氷晶は液体の水が凍ってできたものではなく、気体の水蒸気が直接固体になってできたものです。氷晶が落下する間に周囲の気温が0℃以上になることなく地上に到達すると雪として観測されます。気温が0℃より高いと氷晶は融け始め、完全に融けると雨になります。気温が氷点以上であっても、空気が乾燥している場合には昇華によって熱が奪われるため、すぐには雨にはならず雪のまま地上に到達することもあります。

直径10センチの雪片！！

雪の結晶は一つ一つ単独で降ってくる場合もありますが、くっつき合って降ってくることも多い。これが‘雪片’で、大きなものは一般には‘ぼたん雪’と呼ばれています。雪片は雪の結晶同士の併合によって大きくなったものです。一つの雪片を構成する結晶の数は多い時には数百にもなり、直径が10cmに達することもあります。気温が高い時にできやすいのですが、雪片が形成されるメカニズムはまだ良くわかっていません。

重さ750gの雹(ひょう)が落ちてきたら・・・

氷霰が5mmより大きくなったものを‘雹(ひょう)’と呼びます。雹の落下速度は直径5mmで10m/秒、直径5cmで30m/秒以上にも達し、積乱雲の中での強い上昇気流に支えられて成長します。アメリカでは直径約45cm、重さ750g以上のものが観測されたことがあるそうです。
・・・こんなのが落ちてきたら怪我人続出ですよねえ～

雪の結晶って色々あるんですね！！

別名‘六花(ろっか)’と呼ばれているように、六角形をした氷の結晶です。その形は繊細で全く同じ‘顔’をしたものはありませんが、横に伸びているか、縦に伸びているかで、角板と角柱に大別されます。角板の仲間には扇形・角板・樹枝などと呼ばれる結晶があり、角柱には角柱・針・砲弾などがあります。鼓型など角板と角柱が組み合わさったものもあります。どうして、六角形になるかはまだ良くわかっていません。判っていない事ばかりで。。。ごめんなさ

信じられないスポーツ！！

スノースポーツというとスキーやスノーボード、あとはせいぜい雪合戦ぐらいしか思いつかない人も多いと思いますが、今各地で静かなブームを起こしている雪泳というスポーツがあるのを御存知ですか。知らない人のために、ここでその雪泳というスポーツがどのようなものか紹介します。
雪泳とは読んで字の如く雪の中を泳ぐスポーツです。その起源は意外と古く、日本泳法の一流派である古川流の、江戸時代初期の極意書の中には既に「雪中を泳ぐ術」という記述があります。また、海外では17世紀中頃にフランス北西部で雪泳によるレースが農民たちの間で行なわれたという記録が残っています。
現在競技会等で行なわれている近代雪泳は、1967年にデンマークのクラウゼオ・フォン・シュタイン博士の提唱した公式ルールによって幕を開けたとされています。言わば古くて新しいスポーツなのです。翌1968年に設立された世界雪泳連盟は、1988年の設立20周年に際し、将来は冬期五輪の正式種目とされるようにIOCに働きかけていくことが決議されています。日本でも1976年に日本雪泳連盟が設立されて以来、徐々に愛好者も増えてきています。

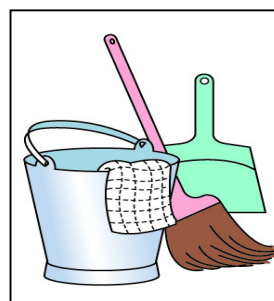
これからのシーズン車の運転には十分にご注意ください

降雪が1センチ以上の時は、滑りやすい圧雪に注意！！

非常に滑りやすい圧雪は、圧雪の上に氷膜が形成されドライバーから見て白く見え、表面のみ凍ってつるつるの光沢ができ、滑りやすい状態です。降雪が1cm以上あり、雪が降った後早い時期(おおよそ24時間以内)に形成され、表面の氷膜は、タイヤのスリップによる摩擦熱など、気温以外の影響でつくられます。

ブラックアイスをご存知ですか？？

ブラックアイスは、1mm未満の厚さの氷膜が、舗装表面上にある状態で、ドライバーから見て透明または黒く見えます。ブラックアイスの出現は、路面に残る水分が少なく、かつ、路面温度が氷点下である必要があります。アイスや圧雪路面が、蒸発や融解、タイヤで削られて、水分が少なくなり、ブラックアイスに変化する場合があります。



路面のグリップ状態を確認しましょう！

路面のグリップをチェックするために、出来れば平坦な直線の区間で前後のクルマが100m以上も離れていることを確認してから、軽くブレーキを踏んでみましょう。そうすると、舗装路のようにグッと効くのか、ズズッとめり込むように効くのか、ツルーン！と滑るのが判ります。路面の状況が黒(ウェット)から白に変わったときやその反対のときに確認すると良いでしょう。

ABSが付いているから安心？？？

ABS(アンチロックブレーキシステム)はブレーキ時に安定した車体姿勢を確保し、ハンドル操作を可能にする装置で、制動距離を短くしてくれる装置ではありません。当然、雪道で「ABSがついているから早く止まれる」という装置ではありません。実際、路面状況によって、ABS付がついている車のほうが制動距離が伸びる場合もあります。また、ABSの性能によっても制動距離が大きく変わります。
・コーナーでは十分過ぎるぐらい減速すること。
・スピードを出しすぎないこと。

前日の最高気温が0度未満の時はアイスパーンに注意

アイスパーンは、降雪が1cm未満で、前日の最高気温が0℃未満の場合出来やすいのです。ドライバーから見て透明または黒く見え、氷の厚さは1mm以上で、非常に滑りやすい圧雪から変化する傾向が強いです。日射、車両による熱で融けた雪が再凍結して形成されます。

ディーゼル車の軽油にも寒冷地仕様があるの？？

ディーゼル車は軽油の凍結に注意 ディーゼル車は現地のガソリンスタンドで軽油を給油するようにしましょう。寒冷地仕様のものでないと凍ってしまう恐れがあるからです。これって。。マジですかあ？？

シャーベット状の雪道を甘く見ていませんか？？

雪が溶けかかり、シャーベット状になった路面は実はアイスパーン並みに危険なのです。雪道では、タイヤの摩擦熱で溶けた雪が水となり、路面と接地面との間に入り込み、滑る原因となっています。水を多く含んだ雪質は雪のせん断力が期待できないので、見た目以上に滑りやすいのです。特にノーマルタイヤはタイヤの接地面に多量の水が入り込み、グリップが

ブレーキの使い方を間違っていないですか？？

下り坂や交差点ではフットブレーキのみに頼らず、エンジンブレーキを活用しましょう。マニュアル車ならギヤを1～2速分落とす、オートマ車ならD→2に落としてシフトダウンさせればタイヤがロックせず安全にスピードコントロールできます。ただし、マニュアル車は速度が高い状態で2～3速分一気にシフトダウンするとかえってロックしやすくなるので注意が必要。
カーブ手前では、直線のうちにブレーキングまたはシフトダウンを終えるのが原則です。カーブの途中でブレーキングやシフトダウンを行うと急にタイヤ

よく見かける朝のシーン！ これは危ないです！！

これからの寒い朝に凍ったままの視界の悪いガラスの状態で運転することは非常に危険です。水をかける、エアコン、アイスクレーパー、霜とりスプレーなどで確実にすべて溶かしてから運転を始めましょう。濡れたフロントガラスにワイパーをかけると一気に凍る事がありますので、ご注意を！！



中 西 建 設
〒818-0058 筑紫野市 湯町1丁目11-1

世界でただひとつ、あなただけの部屋作りをしてみませんか？
お手伝いさせていただきます。
住まいに関する事なら、何でもご相談ください。